

～「働き方改革」～ 企業トップへの働きかけ

昭和電気鋳鋼工業株式会社

田窪文明群馬労働局長は、令和元年10月16日に昭和電気鋳鋼株式会社（本社：群馬県高崎市）の手塚加津子代表取締役社長を訪問し、同社の「働き方改革」の取組状況などについてお話を伺いました。



田窪労働局長

手塚社長

【法人概要】

所在地	群馬県高崎市倉賀野町 3250 番地
設立	昭和 58 年 2 月 1 日
代表者	代表取締役社長 手塚 加津子
労働者数	92 名 (2019 年 11 月 1 日現在)
事業内容	鋳鋼品製造業

働き方改革を進めたきっかけ

先代の社長から会社を引き継ぎ、労使の信頼関係を築くのが大変だと業界からも言われていた中、企業風土を変える必要性を感じ、生産性向上などの取組を進めることとなった

具体的取組

○時間外労働削減について



所定労働時間は7時間40分で、就業時間プラス2時間以内の残業時間は守られている
残業代についても、通常125%のところを130%支給
一ヶ月の時間外労働は42時間までとし、36協定の特別条項も月60時間で区切っている
実態としては、42時間、60時間に及ぶ時間外労働は発生しておらず、間接部門を含めた月平均の残業時間は24時間となっている

取引先の要望が厳しい現実もあるが、労働時間の取組については丁寧に説明し理解してもらえるようになってきている

○年次有給休暇取得促進について

ゴールデンウィークや、年末年始、お盆など必ず休みとする労使協定を締結している
年次有給休暇の付与は入社3か月で6日、その後3か月で4日、入社後1年で10日など、法定より多く、また早く付与している。さらに、年次有給休暇を2年で最大50日貯められるため、家庭の事情など不測の事態に対応できるようにしている
年休の取得率も74%、取得日数は平均12日位のため、月1日程度は取得している形である

魅力ある職場づくりについて

働き方改革を進めると同時に、どうすれば従業員が幸せになるか、また皆が喜べる職場になるか、そのためには、会社は利益を出し、その一部を従業員に分配したいと考えている
福利厚生としては、全員参加のバーベキュー大会を会社負担で実施している
これは、良い製品を作るためには各部署がスムーズに連携できる事が大切であり、人間関係作りのためにも、このバーベキュー大会は役立っている。また主任クラスに企画を任せているので次世代のリーダー育成というような様々な意味を込めて行っている

生産性向上の取組について

現場のチェック記録がペーパーでなされており、それが何年分も保管され、ファイルを運ぶ労力が大きいことがきっかけとなり、取組を進めることになった
ネットワーク化を図ることで、事務所と現場のやりとりに費やす時間短縮だけでなく、現場への指示がリアルタイムで行え、さらに納期や不具合への即時対応等も図られ、お客の信頼にもつながることから、現在進行形で進めているところである

女性の活躍推進

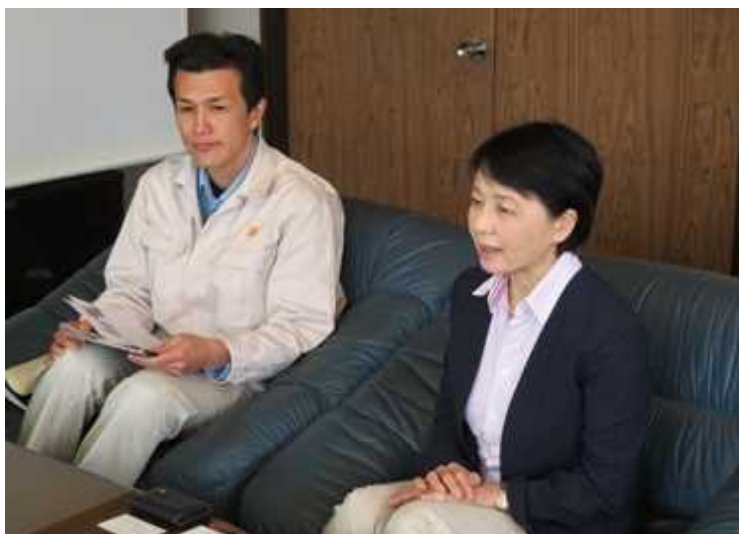
トイレなどの環境整備を行い、現在現場に4名配置されている
また、現在は有給休暇の取得を半日毎にしているが、将来的に女性社員が増えた場合、子供の事情などにより時短勤務を認めたり、急な休みに対応できるような方策を考えていきたい

採用の状況等

現場も間接とも人員不足は生じており、中途採用で何とか対応している
若者の製造業離れが激しいため、採用だけではなく、引き留めることも必要と考えている
その一環として、職場環境の改善に積極的に取り組んでおり、熱中症対策（保冷剤が入るベストの作成、ペットボトルの配布）なども徹底して行っている
新卒者は9名採用してきているが、定着率は80%と高いという認識である

働き方改革を進める上での課題・取組

ものづくり中小企業の女性経営者の団体「ものづくりなでしこ」の副代表を務めており、女性社員の出産などのライフワークを踏まえた時に、中小企業としてどのような人事管理をしていくべきか等、事例をあげ真剣に討論している



企画部 仁木課長

労働時間等の状況

- 前年度の有給休暇
平均取得日数 12.0 日／年
- 前年度の月平均所定外
労働時間 24.4 時間
- 平均勤続年数 9.1 年